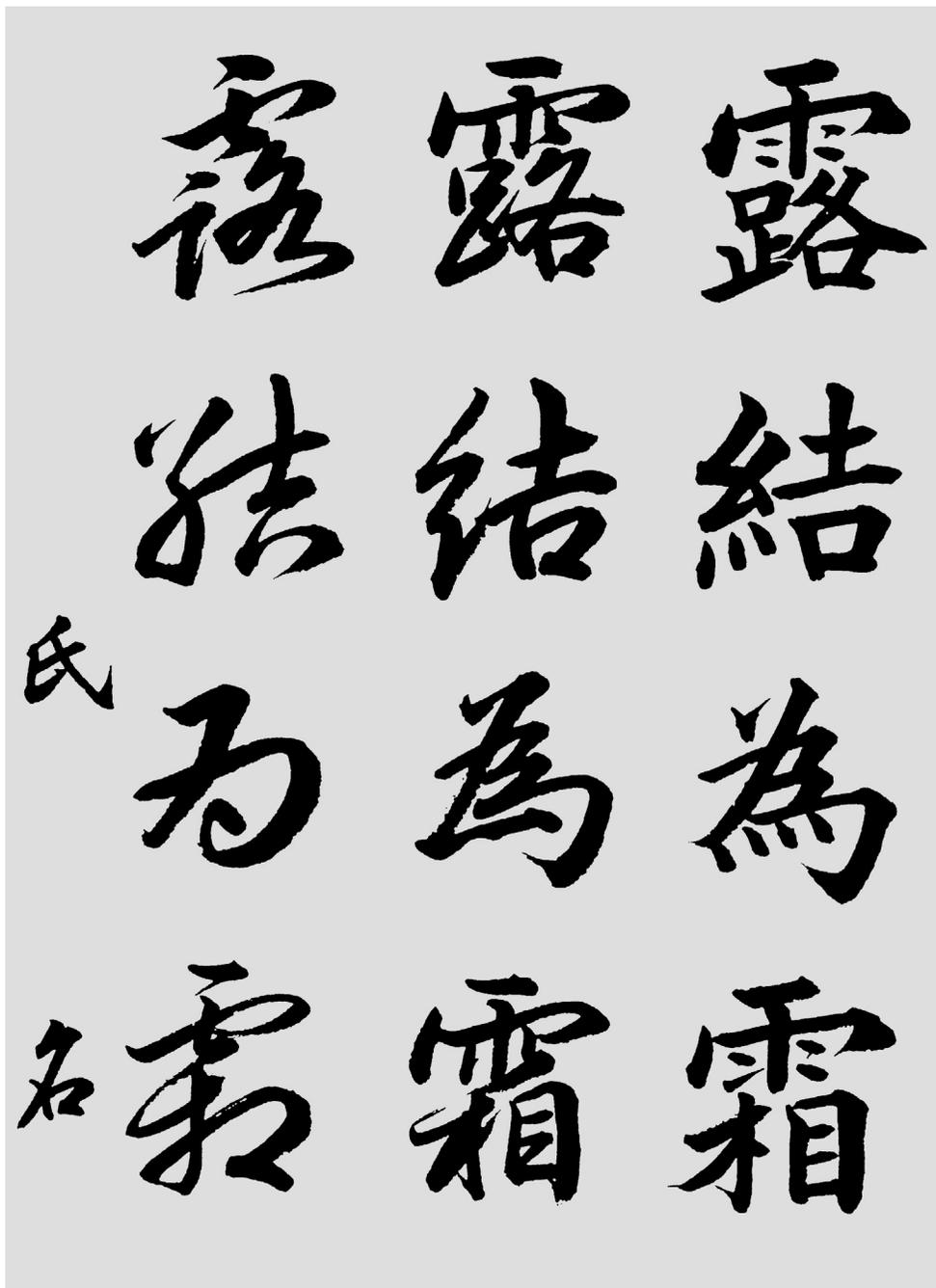


三体千字文を書く(10)

締切り 十月二十五日(必着)



奥村憲照先生書

□作品の出し方

- ▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部 B5判に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。
- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六(一九八一)年四月のことです。

◆「三体千字文」の一課題からスタートしましたが、憲照先生の穩健中正で気品のある毛筆手本が好評を博し、「硬毛一致」の新しいスローガンを打ち立てて毛筆部の充実を図り、本会の発展へとつながりました。

◆原点に戻って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初学者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二〜五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

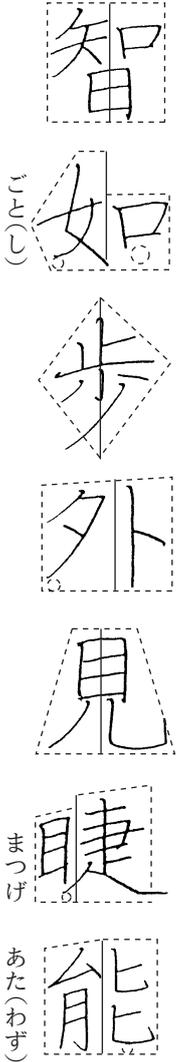
〔解説〕

雲騰致雨
露結為霜
雲が騰って雨を降らせ、露が凍って霜となる。

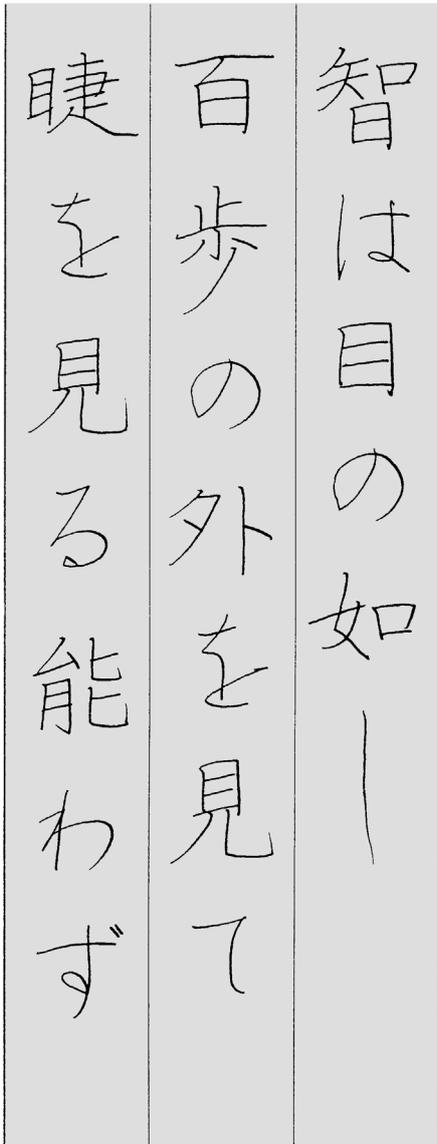
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。
 ◎石の上にも三年。半世紀前、私は十級で入会、六級まで昇級したものの昇級が望めず自分の限界かと退会を考え
 た。師の教えは尊い。「三年経っても六級ならば致し方がない。三年は努力を」との言葉で今日まで続けられて来た。

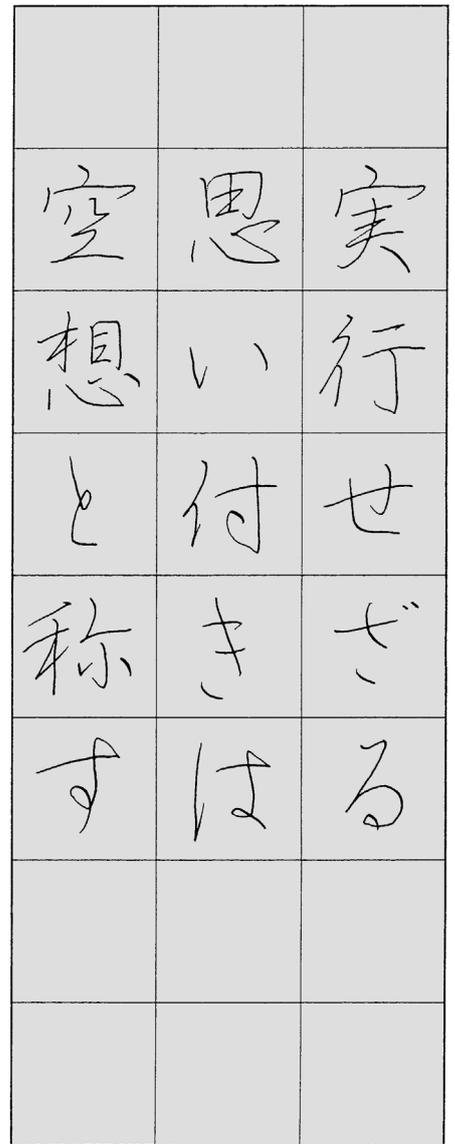
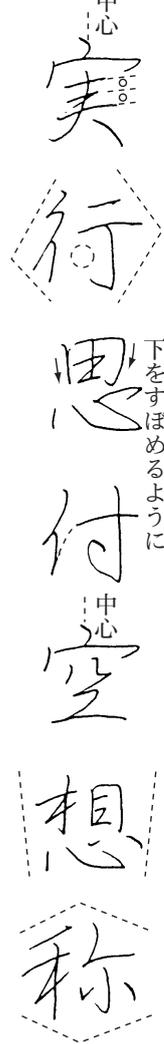


おか だ りゅう ほう 書
 岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



おお たに せい じょう 書
 大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★実行：（書体＝行書）

国木田独歩（一八七一～一九〇八）
 明治時代の詩人・小説家

「実行せざる思い付きは空想と称し、
 また妄想と称す」が全文。

世には口先だけが立派な人が少なく
 ありません。どんな素晴らしいことでも
 実行しなければ意味がありません。
 たとえ小さなことであっても、一つ一
 つ着実に実現していくことが大切なの
 です。

◆11月課題予告（楷書）

欠点は常に
 裏から見た
 長所である

★智は：（書体＝楷書）

韓非（？～前二三三頃）中国、戦
 国時代末期の思想家。『韓非子』を
 著して政治の方法を論ずる。

目は遠くまで見渡すことができます
 が自分のまっげを見ることはできません。
 人の知恵も同じで、他人のことは
 細かく分かっている、自分のことと
 なると気づかないことばかりです。「人
 のふり見て我がふり直せ」にも通じま
 す。

◆11月課題予告（行草または草書）

人生相知るを貴ぶ

何ぞ必ずしも

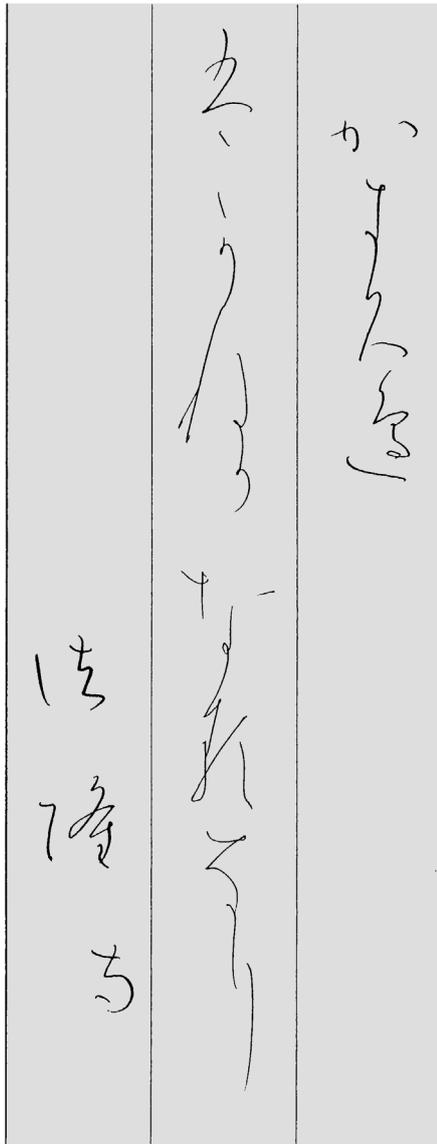
金と銭とならんや

▼教範・書範＝行書

▼師範＝楷書

準初段から六段まで

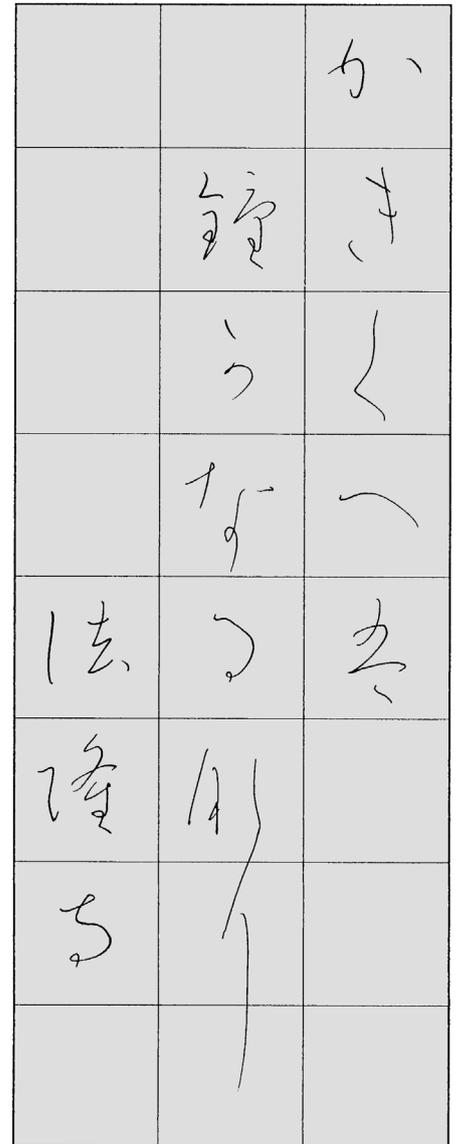
新入から1級まで



柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺

柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。



おお みや しゅん ちよう 書
大 宮 春 兆 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

おお みや しゅん ちよう 書
大 宮 春 兆 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆11月課題予告

流れ行く大根の葉の早さかな

(高浜虚子)

類る 那な 可か 盤は 邊へ
 類る 那な 可か 盤は 邊へ

〔古筆参考〕

〔句意〕法隆寺に詣で、茶店に立ち寄って好物の柿を所望してかぶりつくと、折しも日暮れどきの古刹の鐘の音が響きわたり、いかにも秋だなあと、しみじみ感じられたことである。

柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺

(正岡子規)

締切り 10月25日(必着)

十二月に結婚する事になりました。今は仕事を辞め、花嫁修業中です。来月には新居の落成祝いを兼ねて食事会を予定しています。料理の腕はまだですが、心を込めて作ります。是非お出かけ下さい。

十二月に結婚する事になりました。今は仕事を辞め、花嫁修業中です。来月には新居の落成祝いを兼ねて食事会を予定しています。料理の腕はまだですが、心を込めて作ります。是非お出かけ下さい。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

多数の日本人が農業労働者として早くから南アメリカに移住した。

山梨県甲斐市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

蘿圖而御六辯

準初段から師範まで

岡田龍芳臨

〔出典〕孔子廟堂碑（626～633）〔筆者〕虞世南（558～638）

〔読み〕蘿ら図とを（席せきして）、而しこうして六りく弁べんを御ぎよす。

書添君
子智

新入から1級まで (行書)

澤静雨書

〔読み〕書は君子の智ちを添そう

〔大意〕すべて読書はその得たる所多く、君子の智を添えるものである。



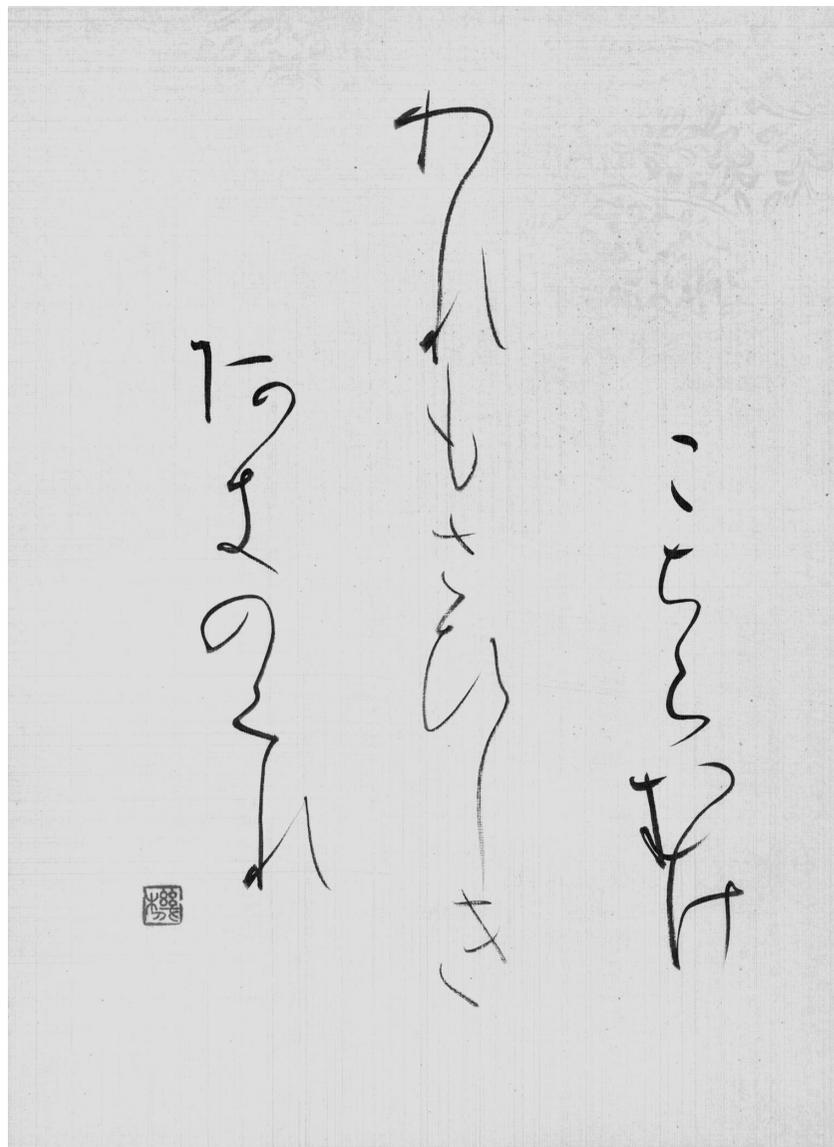
蘿
圖
而
御
六
辯

一般部毛筆かな課題

締切り 10月25日 (必着)

新入から1級まで

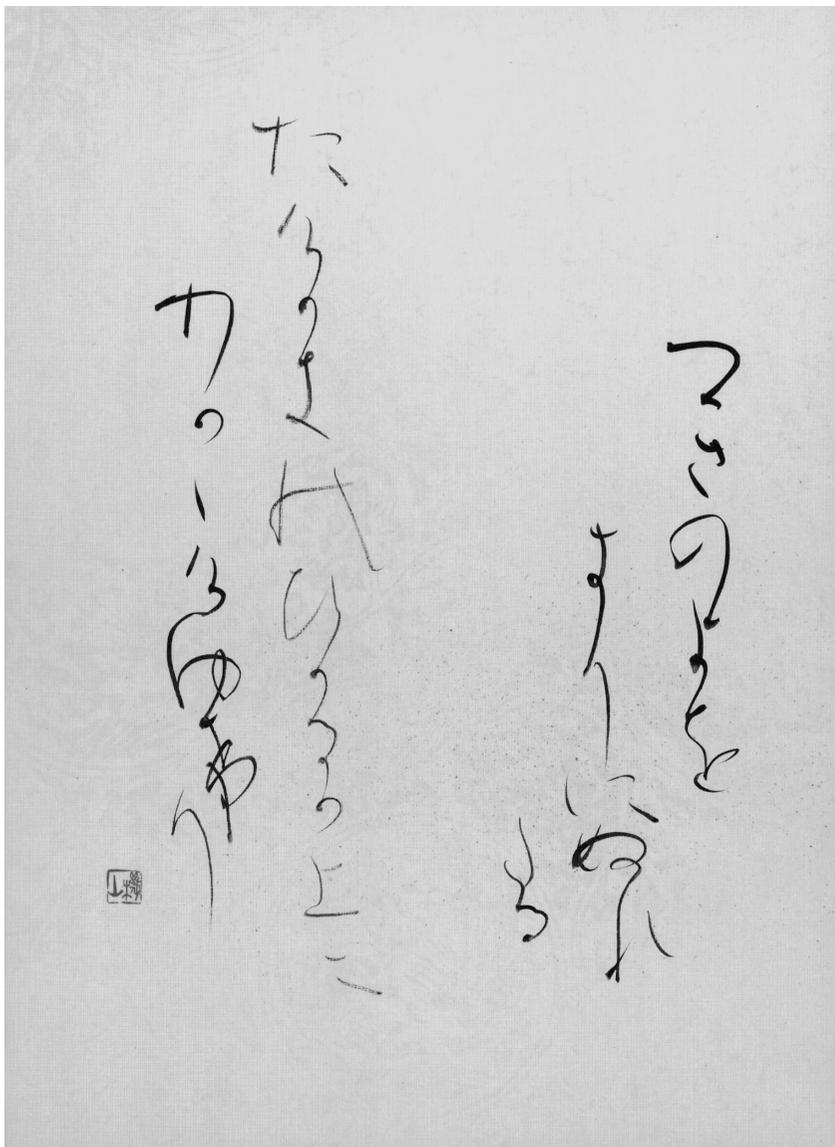
浅井機山先生書



こちらむけ我もさびしき秋の暮

準初段から師範まで

■両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



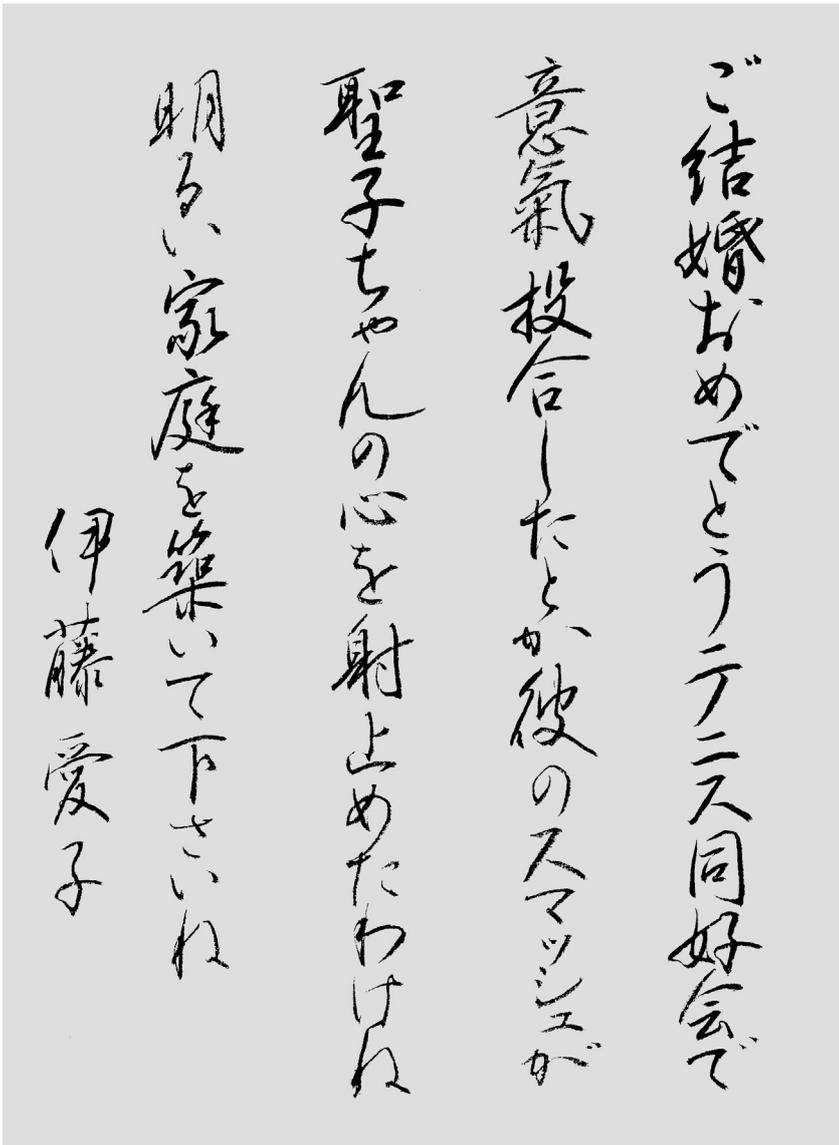
月のあかるい夜、霧に濡れた竹垣がきらきらと光っている上を、わたしの影が通り過ぎて行く。

〔出典〕 中村憲吉

〔歌意〕 月のあかるい夜、霧に濡れた竹垣がきらきらと光っている上を、わたしの影が通り過ぎて行く。

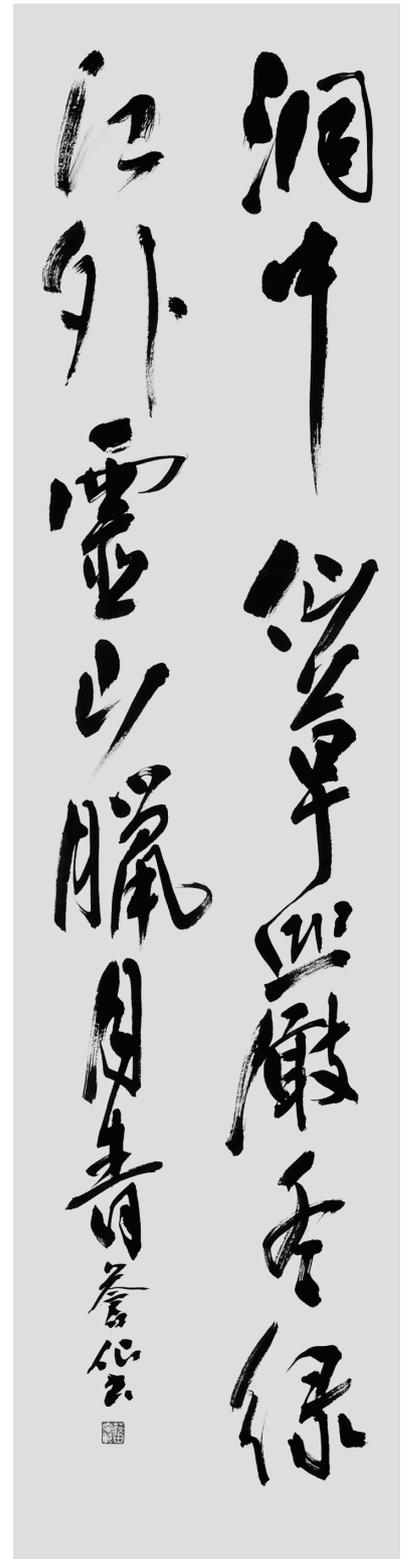
〔出典〕 松尾芭蕉

〔句意〕 あちらを向いている僧よ、私の方に顔を向けてほしい。秋の暮は私もさびしいのだから。



半紙 (334mm × 240mm)

書 華 玲 田 樋



締切り 十月二十五日(必着)

半切 (一三六cm × 三五cm)

荻田蒼仙書

洞中 仙草 嚴冬 緑
江外 靈山 臘月 青
〔大意〕 仙人の住む洞中は厳しい冬でも青く、川辺の靈山も冬枯れもせず青い。
初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔条幅解説〕得てして、自分の書きぶりに何の疑問を持たないまま、書く枚数を重ねます。がんばった！これで納得します。或いは自分の能力はこんなもの……と開き直ります。ところが上達には、ウマイ、エライ方の書きぶりを見る事が上達の妙薬です。書は線であるとするれば、価値ある美しい線は、この見ることが妙薬です。私もこの妙薬を求めて八十路を歩み続けます。

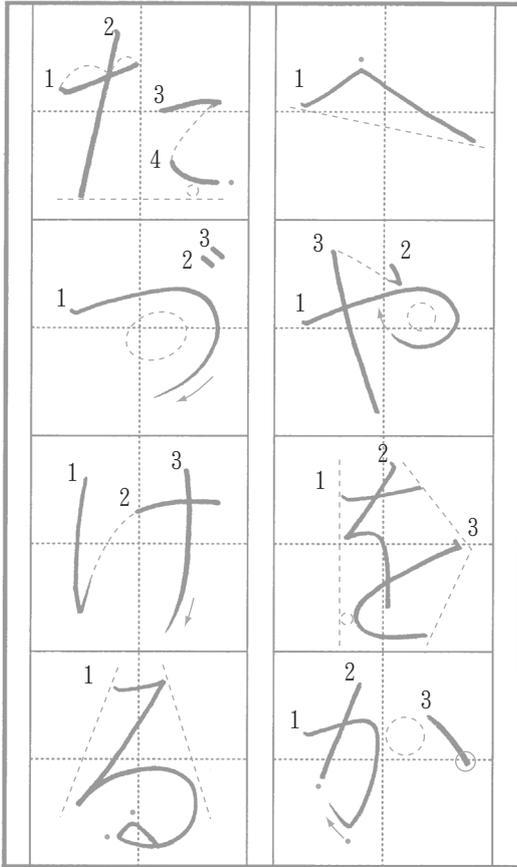
・ご結婚おめでとう テニス同好会で
意気投合したとか彼のスマッシュが
聖子ちゃんの心を射止めたわけね
明るく家庭を築いて下さいね
(ご自分の氏名)

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

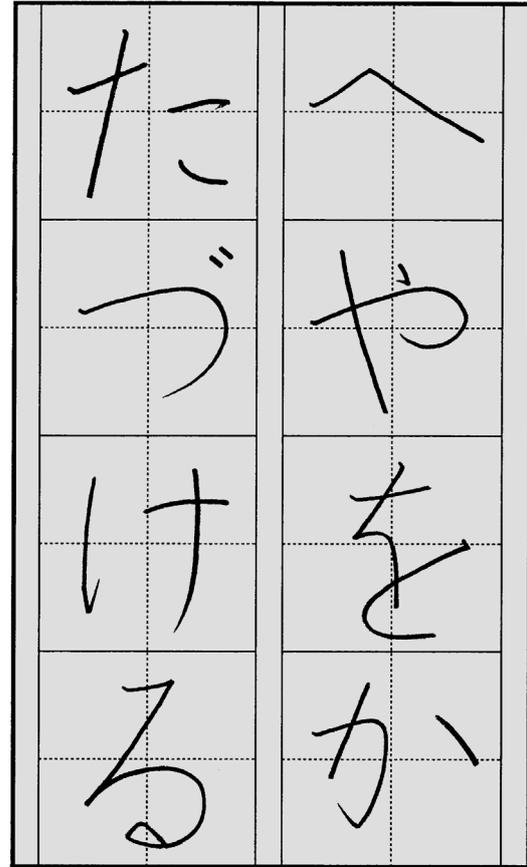
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位5等)は、評価により毎月変わります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐく〉自由(黒色にかざる)



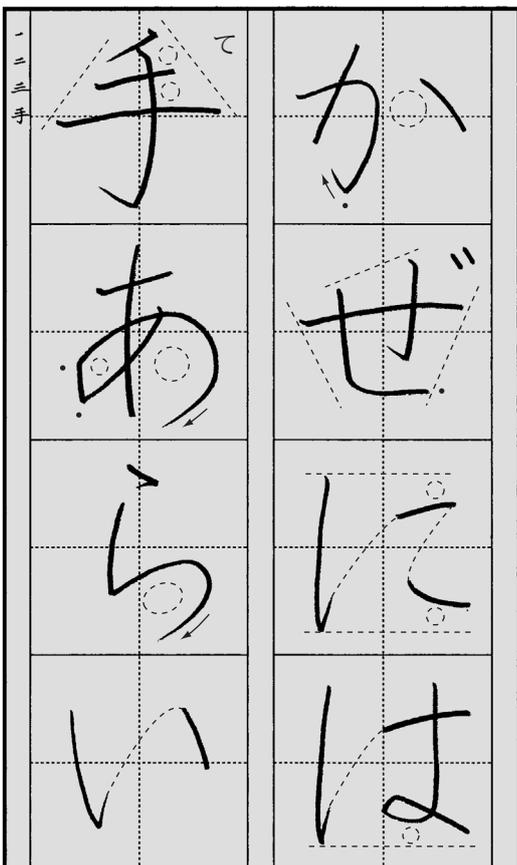
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

幼年〜小三年
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐく〉自由(黒色にかざる)

り	自由	自
で	自分	分
立	ひとり	ひと
つ		と

新入1級

の	自	赤
力	分	ち
で	ひ	や
立	と	ん
つ	り	が

小二年

準初段以上

大	福
当	引
た	き
り	で

新入1級

等	福	商
大	引	店
当	き	が
た	で	い
り	一	の

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用鼻〉自由(黒色に限る)

で	改
見	札
送	口
る	ま

新入1級

ま	駅	お
で	の	父
見	改	さ
送	札	ん
る	口	を

小四年

準初段以上

小四以上 須田一葉書

貨	新
店	築
行	祝
	百

解説(よく見て習いましょう)

貨	さ	新
店	が	築
へ	し	祝
行	に	い
く	百	を

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小六年

完	街	共
成	の	同
し	模	作
た	型	業
よ	が	て

(全員)

解説(よく見て習いましょう)

模	共
型	作
完	業
成	街

〈ようじく〉自由(黒色に限る)

中一年 (行書)

て	枝	風
心	を	で
急	添	折
処	え	れ
置	木	た

中二・三年 (行書)

し	行	明
く	き	治
尋	方	神
ね	を	宮
る	詳	の

◎お手本は、つけペンで書きました。

▼小三年以下の課題 か とう こう すい 加 藤 紅 水 書

く	毎 <small>まい</small>	お	秋 <small>あき</small>	色 <small>いろ</small>	り	年 <small>とし</small>	の	づ	
拾 <small>ひろ</small>	楽 <small>たの</small>	じ	山 <small>やま</small>	き	い	し	の	始 <small>はじ</small>	
い	み	ち	中 <small>なか</small>	め		な		た	
	な	ゃ				ん			
		と							

◎お手本はえんぴつ使用



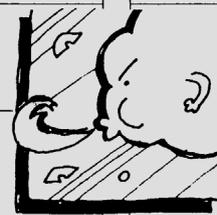
しめきり 10月25日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 しも じょう しゅん そう 下 條 春 桑 書

欠 <small>けつ</small>	飛 <small>ひ</small>	予 <small>よ</small>	暴 <small>ぼう</small>	朝 <small>あさ</small>	航 <small>こう</small>	行 <small>こう</small>	風 <small>ふう</small>	か	
に	機 <small>き</small>	定 <small>てい</small>	雨 <small>う</small>	ら	な	が	で	の	
っ		し		の	た			激 <small>はげ</small>	
た		て		しい				い	
		いた							

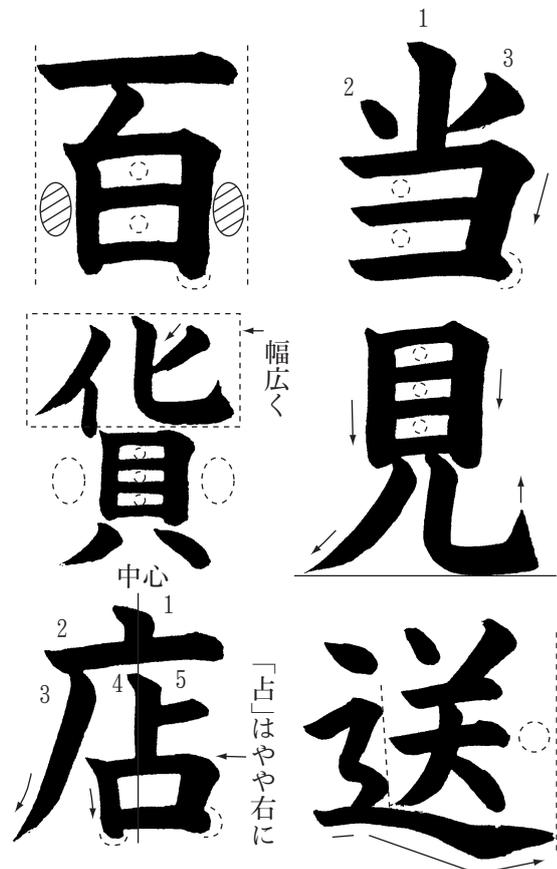
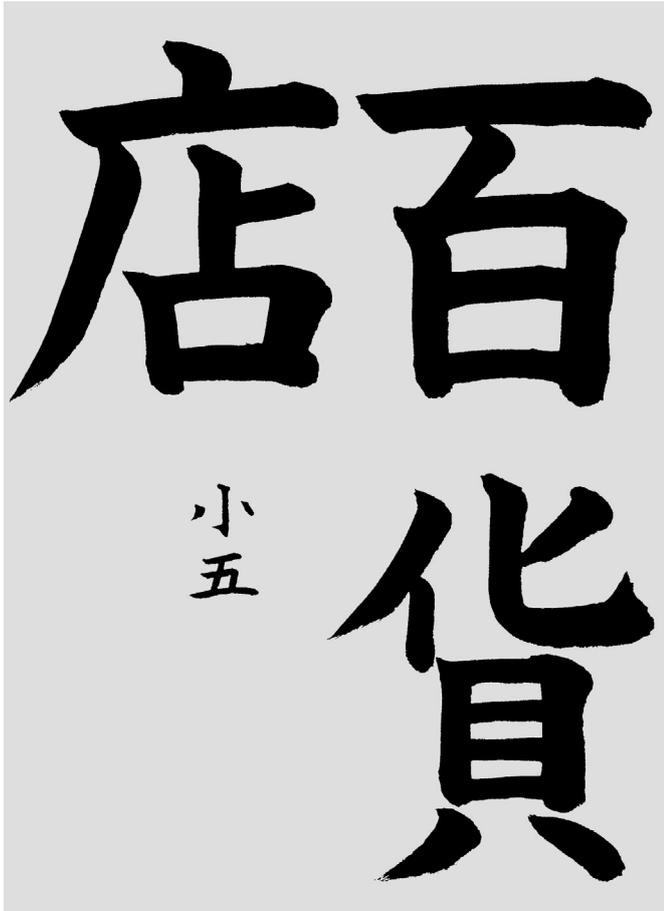
◎お手本はつけペン使用



◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





小三、小五年

水野香竹書

中二・三
神明

小六
作共

宮治

業同

小六・中二・三年

澤

静

雨書

中心
置
神
宮
のびのびと
中心

作
業
急
1 2 3 4

中一
処
底
置
急

○行書は連なりよく運筆し、丸みをもたせる。